

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

| | |
|-------|-------|
| 都道府県名 | 高 知 県 |
|-------|-------|

学校の概要 (平成 15 年 4 月現在)

| | | | | | | |
|-----|---------------------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 中 土 佐 町 立 久 礼 中 学 校 | | | | | |
| 学 年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 | 19 |
| 生徒数 | 45 | 45 | 43 | 2 | 135 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|--------------------|
| 学力向上を図るための取り組み方の研究 |
|--------------------|

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

| |
|---|
| <p>習熟度別学習を重視したコース別の少人数指導について</p> <p>実施学年・・・1～3年の全学年</p> <p>教 科・・・数学と英語</p> <p>実施形態・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学と英語は原則として、年間を通してすべての授業を少人数で実施。 ・本校は、普通学級は各学年とも2クラスずつの6クラス。そこで原則として、どの学年も2クラスを3コースに分け、習熟度別学習を重視した少人数指導を実施。 ・生徒のコース決定に当たっては、生徒や保護者の意向を十分反映し、年度途中でのコース変更もある。 <p>数学・英語で実施する理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者からのニーズへの対応。 ・系統性と日々の積み重ねを要するという教科の特性から、学習の理解と定着において生徒間に大きな差が生じることへの対応。 |
|---|

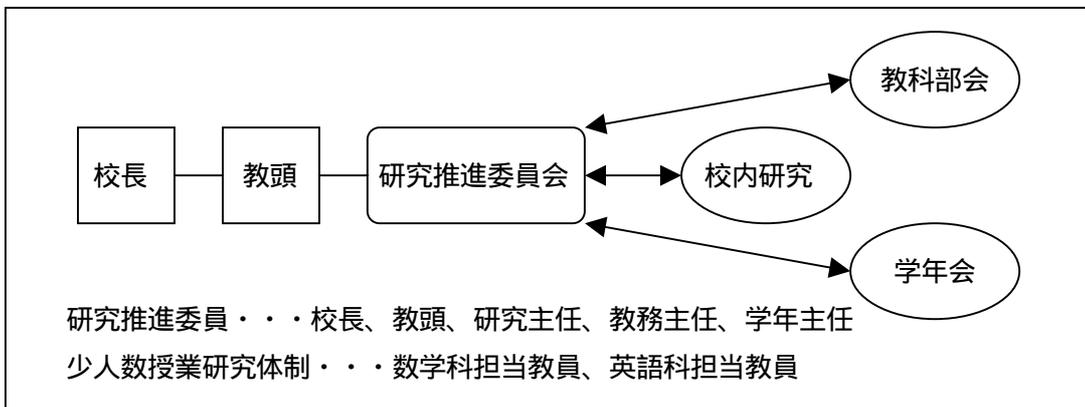
(2) 年次ごとの計画

| |
|---|
| <p>テーマ・・・「学力向上を図るための取り組み方の研究」</p> <p>学力向上に向けて、学校全体としてどのような取り組み方が望ましいかを研究する。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導を円滑に実施するためには、実施に向けた取り組み方が重要である。 |
|---|

| | |
|--------|--|
| 平成15年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の授業が円滑に実施できる前提条件として、一人一人の生徒が周りを気にすることなく学習に取り組める学校体制・学習環境づくりが極めて重要である。 ・少人数の授業に対する生徒の意向や効果について、実態を把握する必要がある。 <p>研究内容・方法</p> <p>全校で取り組む学習環境づくりとして、朝のあいさつ運動、全校読書、全校体力づくりを実施し、実践研究に努めることにした。</p> <p>数学と英語は、各学年とも2クラス3コースに分け、習熟度別学習を重視した少人数指導を実施することにし、授業改善の研究を重視することにした。</p> <p>学力向上に向けての各教科で共通した取り組み、学校全体で取り組む補充指導の在り方について実践研究を深めることにした。</p> |
|--------|--|

| | |
|--------|---|
| 平成16年度 | <p>テーマ・・・「学力向上を図るための取り組み方の研究」</p> <p>学力向上に向けて、学校全体としてどのような取り組み方が望ましいかを研究する。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業が円滑に実施できる前提条件として、一人一人の生徒が周りを気にすることなく学習に取り組める学校体制・学習環境づくりが極めて重要であることが分かったので、さらに研究を深める必要がある。 ・少人数の授業実践の在り方について研究を深める必要がある。 ・学力向上に向けて各教科で連携し、どのような取り組みができるか実践研究を深める必要がある。 <p>研究の内容・方法</p> <p>全体で取り組む学習環境づくりとして、朝のあいさつ運動、全校読書、全校体力づくりを実施し、実践研究に努める計画である。</p> <p>数学と英語は、各学年とも2クラス3コースに分け、習熟度別学習を重視した少人数指導を実施することにし、更に授業改善の研究を重視する計画である。</p> <p>各教科で連携したり、共通した取り組み方について実践研究を深める計画である。</p> |
|--------|---|

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・あいさつ運動、読書、体力づくりに生徒と教職員が協力して取り組み、学習環境づくりの基礎が整った。また、学校全体が共通理解のもと研究に向けて課題意識が高まった。
(アンケート結果参照)
- ・定期的な授業研究を進める中で、コース別の授業におけるきめ細かな指導や教材開発ができた。

2. 今後の課題

- ・あいさつ運動、読書、体力づくりが「生きる力」の土台づくりだという意義づけ
- ・全教員にとって価値のある研究
- ・ボトムアップできる授業づくり
- ・見える学力と見えない学力の相乗効果による主体的に学習する生徒の育成

学力把握のための学校としての取組

- CRT：生徒の学習到達度を測るため、国・社・数・理・英で5月に実施
- アンケート：少人数授業でより効果的に学力を定着させるため、数学と英語で
2学期末に実施
- 学校評価：生徒の実態や学校環境づくりをはじめ、学校の取り組み方を評価するため、
每学期末に実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 学力向上推進協議会での発表
- 学習指導法講座での発表・提案
- 小中連携での情報交換と共通した取り組みへのステップ
- 他校の校内研への参加と提案

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|-------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 3学級以下 | <input type="checkbox"/> 4～6学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 7～9学級 | <input type="checkbox"/> 10～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～15学級 | <input type="checkbox"/> 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input type="checkbox"/> 少人数指導 <input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> T.Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input type="checkbox"/> 数学 | <input type="checkbox"/> 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 外国語 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 美術 | <input type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 保健体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |